

第3次上島町総合計画・第3期上島町総合戦略

つなぐ かみじま

～ 島の未来は私の未来 ～

上島町



総合計画ってなに？

町の総合計画は、「これから先、町をどんなふうにしていきたいか」をまとめた、**町の未来地図** です。

＼ たとえば /

- みんなが安心して暮らせる町にしたい
- 子どもやお年寄りが笑顔で過ごせる町にしたい
- 自然を大切にしながら、住みやすい町にしたい



みんなはこれから
どんな上島町になって
欲しいかな？

そんな町の願いを考えて、

「学校や公園をどうするか」「道路や建物をどうしていくか」「困っている人をどう助けるか」といったことを、**順番に分かりやすく書いたものが総合計画**です。

この計画は、町の人たちの声を聞きながら、
町の役場の人たちが力をあわせて作るよ。

総合計画があることで、町のみんなが **同じ目標を見て、**
少しずつ、**よりよい町を作っていくこと** ができるんだよ！



総合戦略ってなに？

町の総合戦略は、**総合計画で決めた「町の未来地図」を、**
どうやってかなえていくかを考えた計画 です。

総合計画が「こんな町にしたいな」という大きな目標だとしたら、
総合戦略は「そのために、今から何をするか」を書いた**行動の計画**です。

＼ たとえば /

- 子どもがたくさんあそべる町にしたい
- 町に人が集まるようにしたい
- 安心して子育てができる町にしたい



みんなも
町を良くするために
何ができるか考えよう！

そんな目標にむかって、

「いつ」「だれが」「どんなことをするのか」を、できるだけ具体的に決めていきます。

総合戦略があることで、町は「まず何から始めるか」が分かり、
みんなで力をあわせて、目標にむかって一歩ずつ進むことができるよ。

つまり、総合戦略は、

町の未来を良くするための、実行の仕方をまとめた計画 なんだよ！

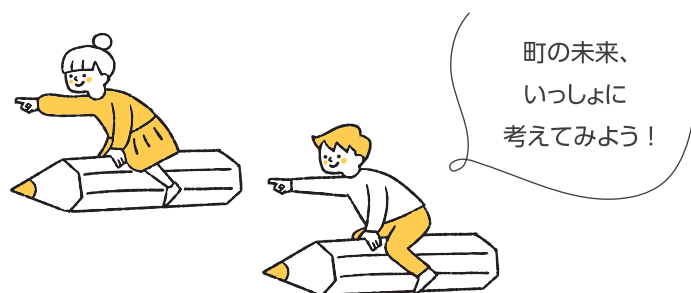


序 論

1

計画策定の背景と目的

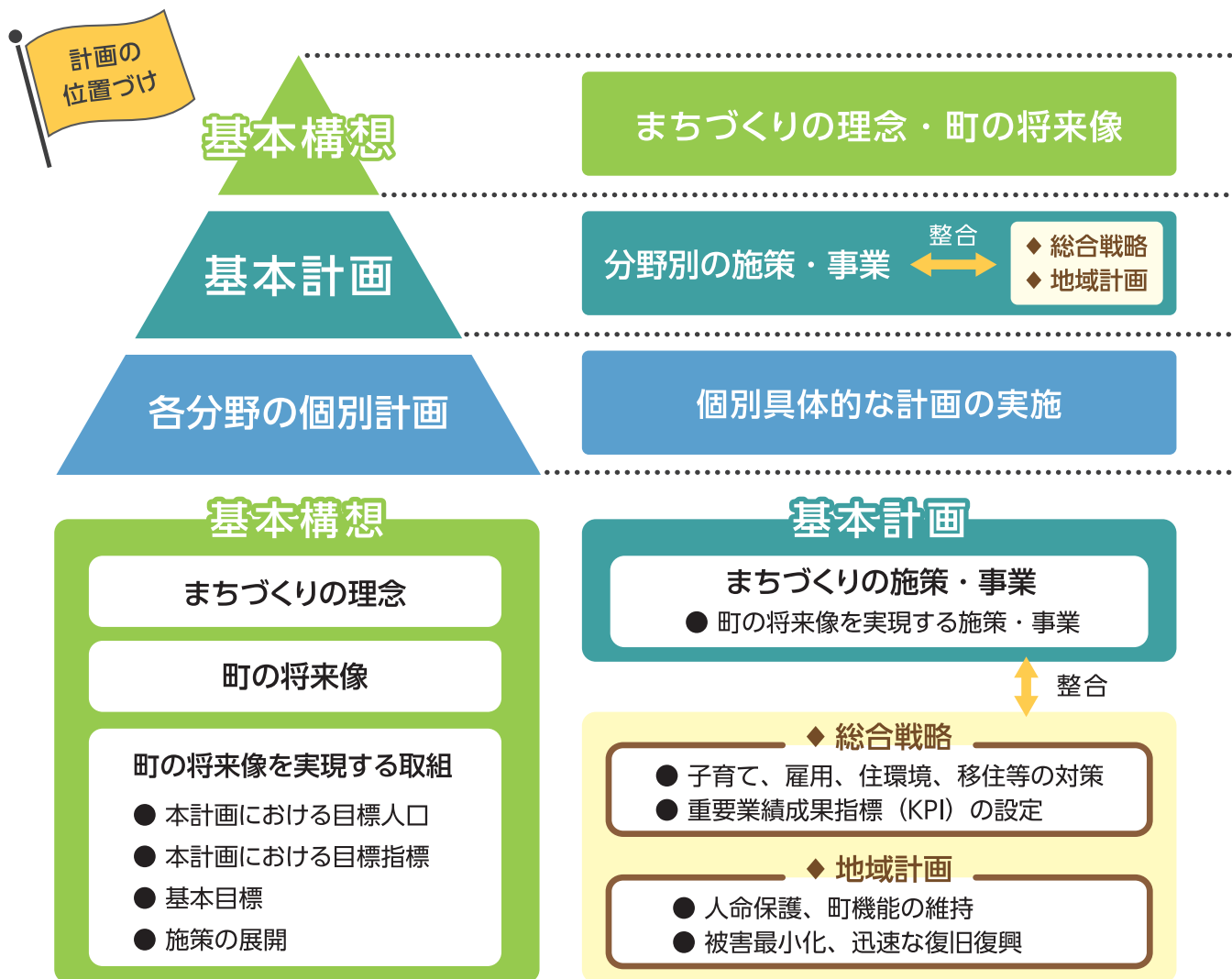
- 世界は様々な面で一層グローバル化が進むとともに、情報通信技術についてはスマートフォンやAIの普及等、社会全体の高度化やデジタル化が進んでいます。
- 我が国ではポストコロナや世界の不安定な情勢を踏まえつつ、全国的な観光誘客活動やテレワークによる多様な勤務形態、様々な業種における人材確保等、経済活動を持続できるよう様々な取組が進められています。
- 国は「地方創生に関する総合戦略」を令和7年12月23日に閣議決定しました。これにより、これまでの地方創生の取組をフォローアップするとともに、地方創生施策の推進戦略を取りまとめ、「強い経済」「豊かな生活環境」「選ばれる地方」の実現を目指す新たな方向性を示しました。
- 本町では、これまでの取組状況等を精査したうえで、時代や社会の潮流を踏まえつつ、持続可能なまちを住民と共に築くことができるよう、「第3次上島町総合計画」（以下「本計画」という。）及び「第3期上島町総合戦略」（以下「第3期総合戦略」という。）を策定しました。
- 本町では、住民が上島町にいつまでも暮らし続けたいと思い、また、若者が住み続けたい、戻りたい、行きたいと思える、真の地方創生による豊かで誇りある地域社会の実現に向けた取組を進めていきます。
- 本町では、「様々な分野で活躍している次世代を担う町民の皆さんと一緒に、町の未来を語り、考え、行動していきたい」という思いから、町民参加型のワークショップを経て令和4年に第2期総合戦略を策定し、地方創生に資する取組を進めてきました。第3期総合戦略も同様の思いから、第2期総合戦略の成果を振り返ったうえで、町民と行政が一体となって策定しました。



グローバル化	国と国とのつながりが強くなり、世界が身近になること。
ポストコロナ	新型コロナウイルスの流行が落ち着いたあとの、新しい社会や生活のこと。
テレワーク	会社に行かずに、家などで仕事をする働き方。
地方創生	地域を元気にして、人が安心して住み続けられるようにする取り組み。
閣議決定	国の大事なことを、内閣の大臣たちが話し合って正式に決めること。
ワークショップ	みんなで話し合ったり体験したりしながら、学んだり考えたりする活動。

2 計画の位置づけ

- 本町では、第3次総合計画（基本構想及び基本計画）を最上位計画と位置づけていますが、第3期総合戦略と「上島町国土強靱化地域計画」（以下「地域計画」という。）との関係が深いことから、両計画との整合を図ります。
- 第3次総合計画の計画期間について、「基本構想」は10年間としますが、「基本計画」と「第3期総合戦略」は時代の潮流や社会情勢の変化に対応できるよう、「基本構想」の中間年となる5年後に見直しを行うこととします。



重要業績成果指標（KPI） 目標がどれくらい達成できたかを、数字で確かめるための目安。

計画の期間

和暦（年度）	令和 8	令和 9	令和 10	令和 11	令和 12	令和 13	令和 14	令和 15	令和 16	令和 17
西暦（年度）	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035
第3次 総合計画	基本構想（10年間）									
	前期基本計画（5年間）					後期基本計画（5年間）				
第3期 総合戦略	第3期総合戦略（5年間）					次期総合戦略（5年間）				



(1) 住民意識調査から見る意識

調査期間 令和6年10月25日～11月29日

対象 町内全世帯（約3,000世帯）

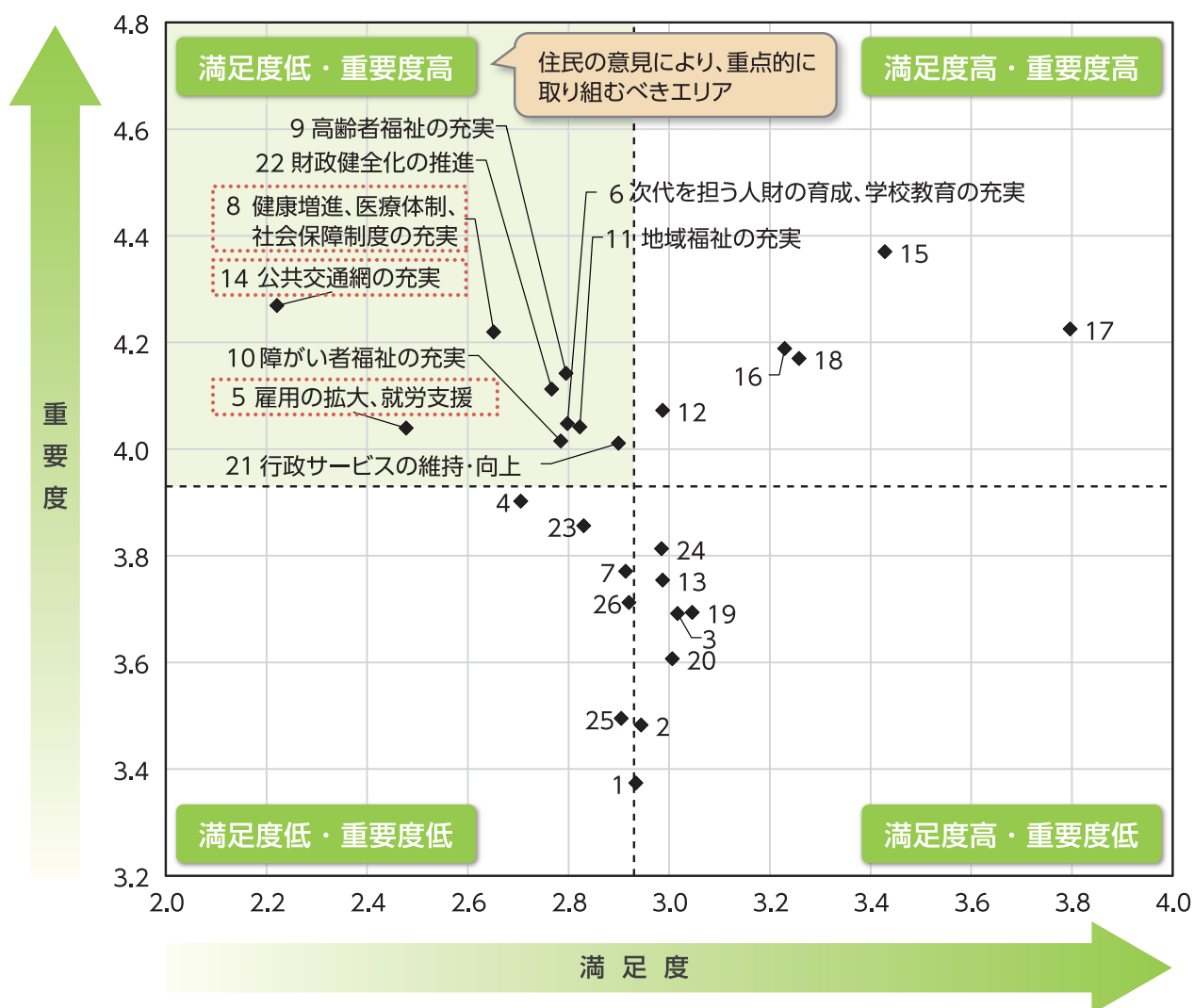
上島町の取組の「満足度」と「重要度」

本町の施策の「現状に対する満足度」と「今後の重要度」について質問しました。この設問では「満足度が低く、重要度が高い」（住民が最も対応を求めている施策項目）に着眼して、結果を分析しています。

全体評価

- 「5 雇用の拡大、就労支援」・「8 健康増進、医療体制、社会保障制度の充実」・「14 公共交通網の充実」が、最も満足度が低く重要度が高いところに位置しています。このため、雇用の創出や就労支援、福祉・医療提供体制の維持、住民ニーズに添った移動手段の確保に関する施策の充実等が求められます。

満足度・重要度の相関図



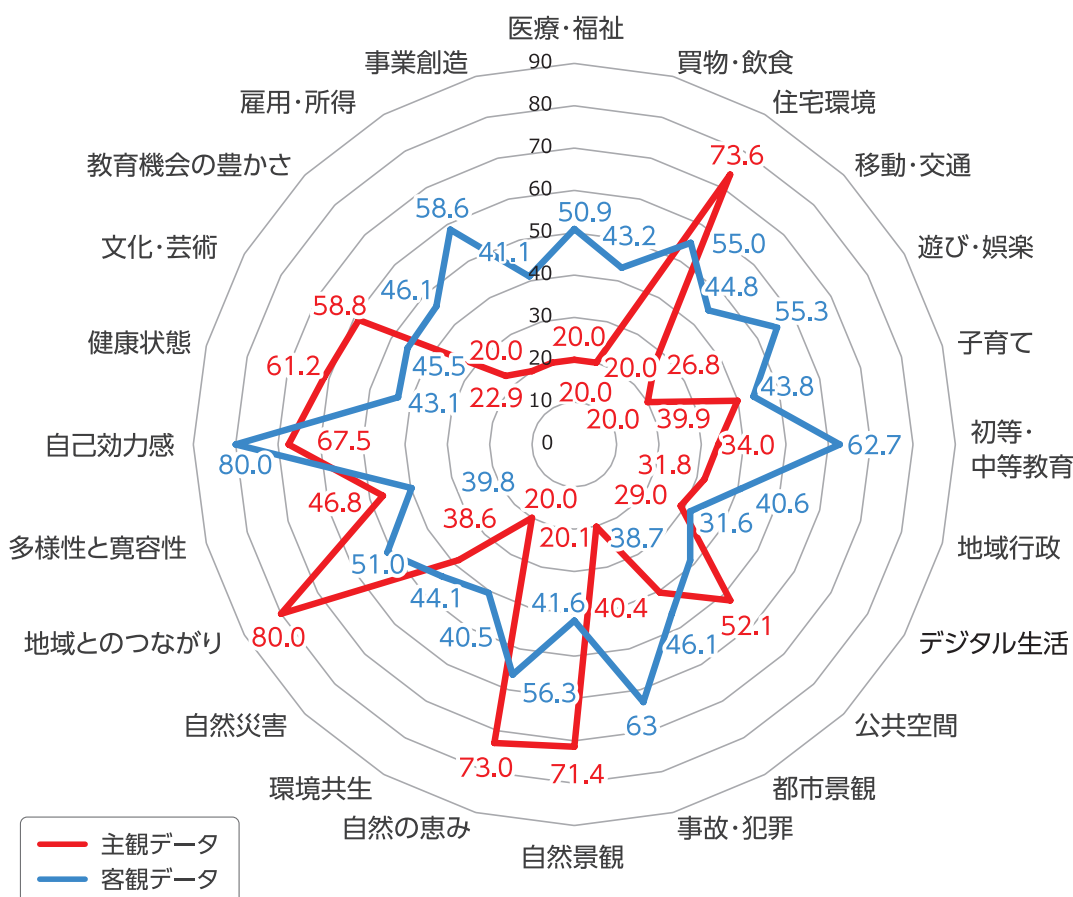
地域幸福度 (Well-Being) 指標について

住民意識調査において「主観指標」を測る設問を設定して質問しました。なお、地域幸福度 (Well-Being) 指標とは、「主観指標」と「客観指標」のデータをバランスよく活用し、住民の「暮らしやすさ」と「幸福感 (Well-being)」を指標で数値化・可視化する新たな取組であり、国のデジタル庁が先導して全国の自治体で実施されています。

地域幸福度 (Well-Being) 指標の考え方

- 地域幸福度 (Well-Being) 指標は、住民の「暮らしやすさ」と「幸福感 (Well-being)」を数値化・可視化するものであり、「50」という基準値を基に、数値が低ければ「弱み」、数値が高ければ「強み」と評価します。
- 「主観指標」は、今回の調査結果を基に偏差値に置き換えた数値であり、「客観指標」は、本町の状況を示すオープンデータを基に国が自治体毎に偏差値に置き換えた数値です。
- 例えば、下のグラフで“地域とのつながり”を見ると、客観指標は51.0で「標準的」ですが、主観指標は80.0で「かなり強い」と住民は感じています。その一方、“移動・交通”を見ると、客観指標は44.8で「やや弱い」ですが、主観指標は26.8で「かなり弱い」と住民は感じています。
- このように各項目の結果を捉えることで、地域幸福度 (Well-Being) 指標が今後のまちづくりを検討する目安になるというのが、国の大きな方向性の一つになっています。

上島町の地域幸福度 (Well-Being) 指標の結果



町民の 主観的幸福感

「住民意識調査」の
(令和6年度)

平均は **6.5** 点

町民の 暮らしの満足度

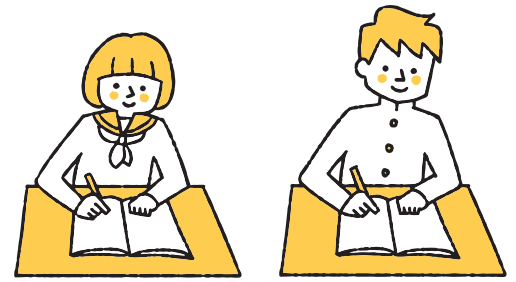
「住民意識調査」の
(令和6年度)

平均は **5.8** 点

(2) 中学生アンケートの結果概要

調査期間 令和6年10月25日～11月29日

対 象 町内の中学生（169人）



01 上島町の暮らしについて

- 「上島町は住みやすいところだと思うか」について、「住みやすい」は79.4%と高い。また、その理由としては、「自然が豊か」、「親切な人が多い」、「災害や犯罪等が少ない」等、自然環境や住環境の良さを評価する割合が高い。
- 一方で、「上島町が住みにくいと思う理由」について、「道路や交通の便が悪い」、「医療体制が行き届いていない」、「文化・スポーツ活動が充実していない」、「まち全体に活気がない」等の割合が高くなっている。

02 将来の展望

- 「社会人になったら、どこに住みたいと思うか」について、「愛媛県外に住みたい」と「分からない（特に考えたことがない）」が39.7%と同率で最も高く、次いで、「上島町内に住みたい」（10.6%）、「愛媛県内に住みたい」（5.7%）の順となっている。
- 「上島町を一旦離れても、将来、上島町に戻ってきて住みたいか」について、全体では、「一旦、上島町を離れたら、将来的にも上島町に戻ってこないと思う」が38.5%と最も高く、次いで、「分からない（特に考えたことがない）」（34.3%）、「一旦、上島町を離れても、将来的には上島町に戻ってきて住みたい」（24.3%）の順となっている。

03 中学生の考える上島町の将来像

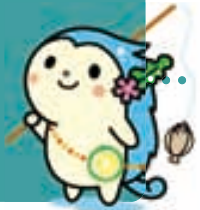
- 今後「もっとよくしてほしい（重要だ）」ことについて、「町の自然環境はすばらしいので、この環境を大切に守っていくこと」が63.8%と最も高く、次いで、「町外への通学・通勤・買い物等をするのに便利なよう、公共交通機関を充実すること」（63.1%）、「若い人が働きたくなるような魅力的な職場をつくること」（59.6%）の順となっている。このことから、若者が移住できる環境整備のために、職業（職場）と生活空間が近接し、自然環境の豊かさを実感できるまちづくりの特化を求めている。
- 「もしあなたが上島町長だったら、町がより良くなるために力を入れるべきことは何だと思うか」について、「町の活性化を望む（人口減少対策、特産品・観光地づくり）」が32.6%と最も高く、次いで、「交通機関の充実」（22.0%）、「安心して暮らすための環境・景観の整備」（19.1%）の順となっている。町の特性と資源を把握し「観光面や雇用面による地域の活性化」と「住みやすさ」を両輪とした取組を一層活発にする必要がある。

上島町の課題ってなんだろう？

4 まちづくりに向けた主な課題

課題 1 人口減少・少子高齢化への対応

町を支える人が
減って、町の元気が
減ると出来ないことが
増えてしまうよ



若い人が町の外へ
出ていってしまうね

もっと移住しやすい
町にしたいね

地元の産業を
支える人が少ないね

働く人が
足りなくなっているなあ

大人になっても
帰ってきたくる町にしたいね

子どもが減ってきているよね

課題 2 地域経済の活性化

仕事が減って、
お店が元気じゃないと、
町も元気が
なくなっちゃうよ



ものを運ぶための
費用が高いなあ

観光を長く続けていく
仕組みが必要だね

町の特産品や景色の良さを
活かしきれていないね

利益が出る仕事や
産業がまだ少ないね

住民と観光に来た人が
交流する機会が少ないね

新しくお店やサービスを
始める人を応援したいな



上島町では、主に4つの課題があると考えています。
これらの課題に対して、さまざまな取組みをしていかなければなりません。



課題 3 自治体DXの推進

町の仕事を
もっと効率化したいね

町を支える人材を
もっと増やしたいね

役場に行かないとできない
手続きがまだ多いね

地域どうしのつながりを
もっと強くしたいね

人が減って
できなくなることを、
デジタル化することで
補えるよ



外部の人や団体と協力できる
仕組みを増やしたいね

災害や緊急時にもっと
すばやく対応できるようにしたいね

課題 4 町民の幸福度を高める取組

町の良さや魅力をもっと
みんなで共有したいね

町の中の移動手段が
少なくて不便だね

祭りや郷土料理などの伝統を
次の世代に伝えたいなあ

森林や畑、海などの
自然を守っていききたいね

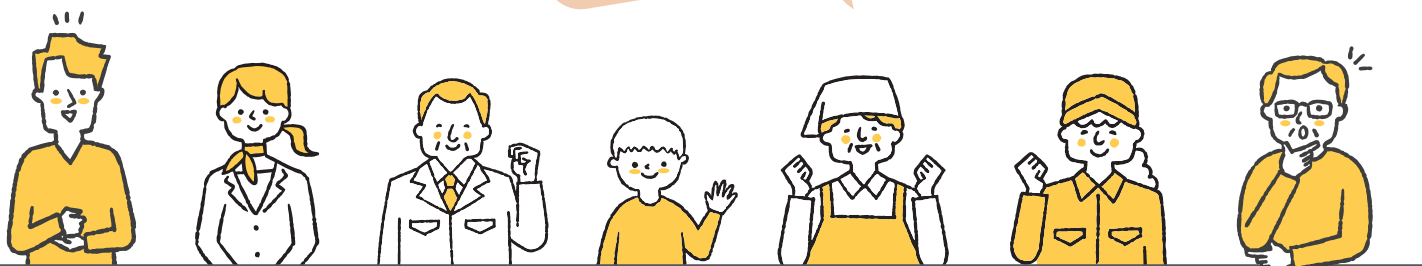
みんなの
幸せがまちの
元気につながるよ



世代をこえた交流が
少なくなっているね

歴史や文化を学べる
場所がほしいね

子どもが安心して育ち、
遊べる環境を
充実させたいね



基本構想

1

上島町の将来展望

(1) まちづくりの理念・目指す町の将来像



本町は25の離島のみで構成されており、島ならではの自然の恵みやロケーション、歴史文化・営み、暮らしがあります。また、都会と比べて時間の流れがゆったりしていて、自らの趣味や家族・友人との時間を大切にできる幸せな環境が整っています。

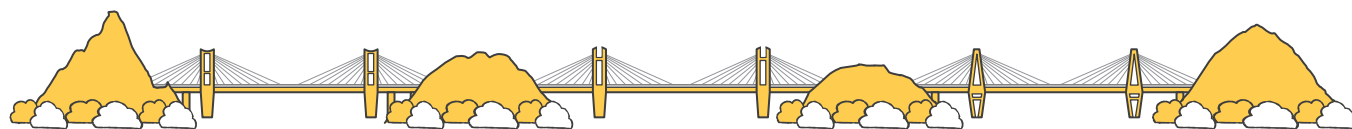
そんな「島」であることの強みを活かし、希望を持って働ける環境づくりや新たなチャレンジを応援することで、世代を問わず町民の誰もが輝ける、夢を描き続ける島であることを目指し、未来へ向かう希望と可能性に満ちた持続可能なまちづくりを進めていきます。



つなぐ かみじま



～島の未来は私の未来～



町のシンボルであるゆめしま海道が全線開通し、4つの島がつながりました。これからの10年間では、次の4つのつながりをさらに広げ、上島町として一丸となって人口減少等、様々な課題を乗り越え、町の将来像を実現する取組を進めていくこととします。

島内をつなぐ

地域のコミュニティのつながり、各種団体・事業者間のつながり、多世代でのつながり等、町民同士の様々なつながりを創出し、深めていくことで、上島町ににぎわいを生み出す。



島外とつなぐ

他地域や海外とのつながりや、移住希望者、関係人口とのつながりを広げ、上島町のことを知ってもらい、好きになってもらう。



島を未来へつなぐ

今ある上島町の良いところ、誇りや豊かさ、文化等を変わず未来へつないでいく。



島と私のつながり

私たち町民一人ひとりが、島の未来を自分事として捉え、島の未来づくりに関わる。



(2) 目標人口

「町の将来像」の実現に向けて各種施策を推進し、出生数の増加による合計特殊出生率の上昇と転出抑制・転入促進による人口減少効果を見込んだうえで、次のとおり、目標人口を設定します。

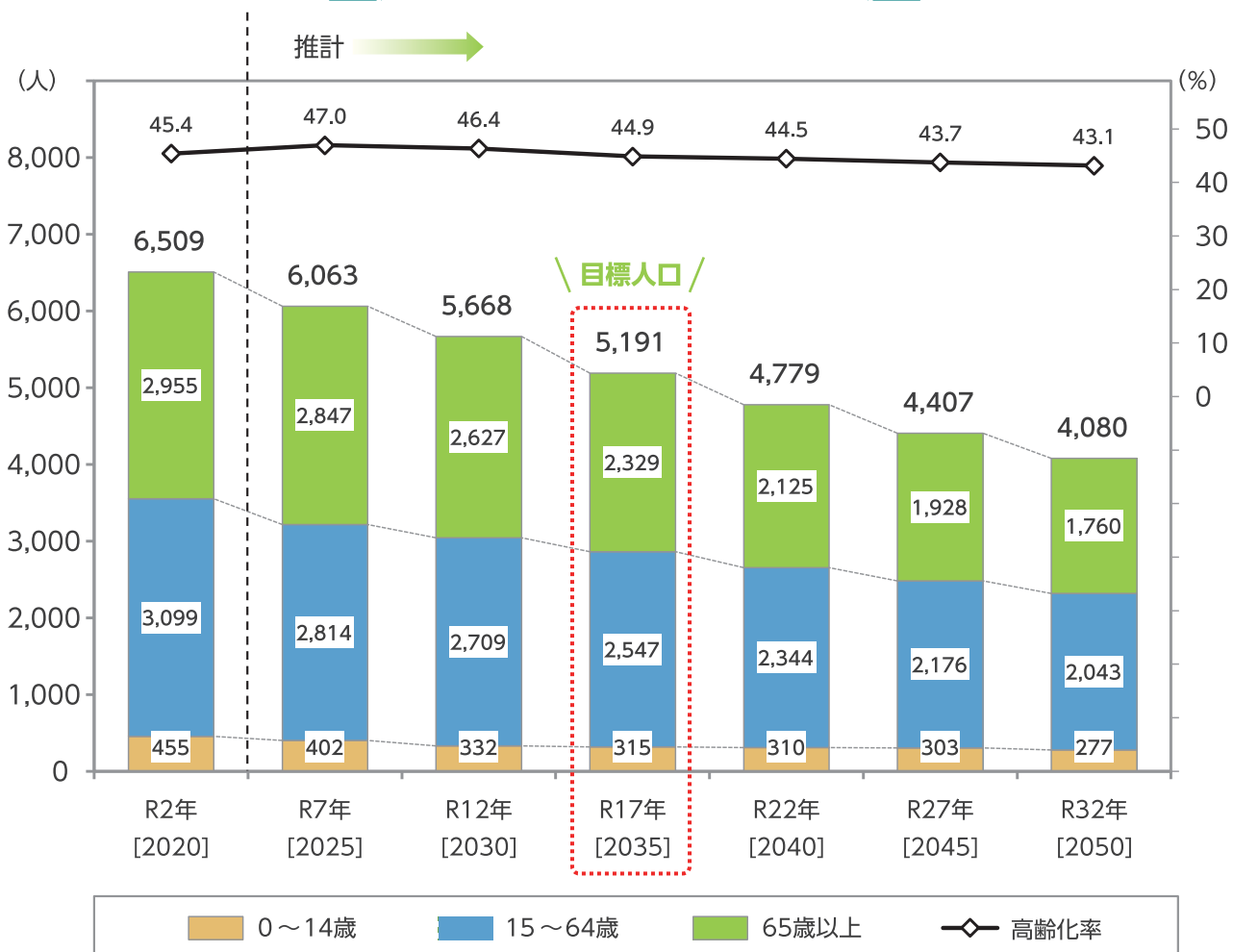
合計特殊出生率

1人の女性が一生のうちに、何人くらい子どもを産むと考えられるかを表す数字。

目標人口

総人口 **5,200人** 程度（令和17年時点）

本町の人口の将来展望



資料：上島町人口ビジョン

(3) 目標指標

「町の将来像」の実現に向けて暮らしやすさを向上させる施策を推進することで、町民の幸福度（ウェルビーイング）の向上にもつながると考えられます。このため、次のとおり2つの目標指標を定めます。

町民の主観的幸福感

Q. 現在、あなたはどの程度幸せですか？

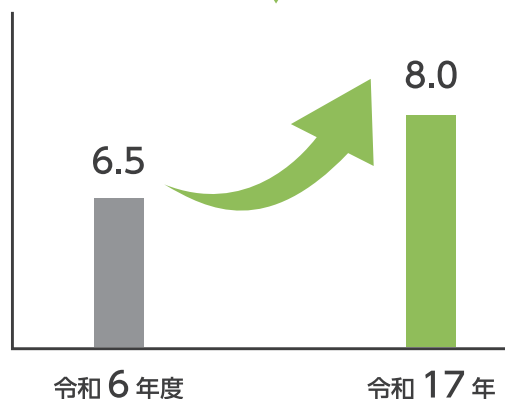
「住民意識調査（令和6年度）」の

平均は **6.5** 点

町民の平均 **8.0** 点
(令和17年時点)

※10点満点（10点が最も幸せ）

＼ 目標 ／
1.5 点 UP



地域の暮らしの満足度

Q. 現在、あなたの住んでいる地域の暮らしに
どの程度満足していますか

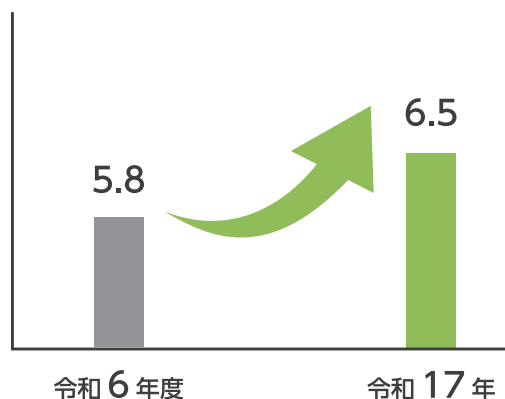
「住民意識調査（令和6年度）」の

平均は **5.8** 点

町民の平均 **6.5** 点
(令和17年時点)

※10点満点（10点が最も幸せ）

＼ 目標 ／
0.7 点 UP



2

総合計画・総合戦略の施策体系

町の将来像・理念

島を活かし 人が輝く 夢の島

キャッチフレーズ

つなぐ かみじま 島の未来は私の未来

総合計画	
基本目標	方針
1 海と自然・なりわい 基本目標 - 人と海・山・里が共存するまちづくり - 誰もが希望をもって働き、活気あふれるまちづくり	1-1 自然環境を活かした産業を続けられる
	1-2 人と自然を活かす挑戦を支える
	1-3 島の自然環境を守り、美しさを保つ
2 教育・歴史・文化 基本目標 - こどもも大人も学び続けられるまちづくり - 歴史・文化を継承し、活かすまちづくり	2-1 島における学校での学び
	2-2 地域社会での学びと育ち
	2-3 島の歴史・文化を活かす
3 暮らし 基本目標 誰もが今ある豊かで幸福な暮らしを継続していけるまちづくり	3-1 島における快適な暮らし
	3-2 いくつになっても健やかな暮らし
	3-3 こどもの笑顔あふれる暮らし
	3-4 住みたい・住み続けたいを支える
	3-5 島での安全・安心な暮らし
4 人と人との関係 基本目標 人が活発に交流し、ふれあいのあるまちづくり	4-1 島を起点とした多様なつながり
	4-2 訪れたいまちづくり
5 行財政 基本目標 持続可能な行財政運営ができているまち	5-1 魅力あるまちを支える
	5-2 まちの魅力を伝える



総 合 計 画 施 策	総 合 戦 略 重 点 施 策
第一次産業の活性化	(1) 自然や景観の保護・管理 (高付加価値化)
造船業の活性化	
創業・事業継続支援	
雇用拡大	
就労環境の充実	
景観の保全	(2) 地場産業の魅力化・発信
環境衛生	(3) 創業・チャレンジへの支援
鳥獣害対策	(4) 離島（地理的条件）を活かす
こどもたちの可能性を広げ、夢につなげる教育の推進	(5) 産業を越えた相互連携
学校・家庭・地域のつながりを大切にした教育の推進	(1) 小～高までの教育環境の「持続」「魅力化」
学校教育環境の整備	
高等教育機関を含む教育環境の充実	
生涯学習の推進とスポーツの振興	
青少年の健全育成	
地域コミュニティ活動の促進	(2) 生涯学習活動の拠点の整備
人権の尊重と男女共同参画の推進	(3) 歴史・文化を学ぶ拠点の整備と 継承する人材の育成
地域の文化・文化財の保存と継承・活用	(4) 伝統行事や食文化の継承
公共交通の維持	(1) 公共交通の利便性の向上
道路・架橋の整備	
港湾・漁港の整備	
上下水道の維持	
生涯にわたる健康づくり	
医療体制と社会保険の維持	
高齢者福祉の充実	
障がい者福祉の充実	
地域福祉の推進	
こども・子育て家庭への支援の充実	
子育て環境の充実	
移住支援	
定住促進	
公営住宅の維持	
治山・治水対策	
地域防災体制の維持	
生活安全対策の充実	
様々な交流の促進	(2) 移住・定住しやすい環境の整備
国際的な関係人口の創出	
上島ツーリズムの推進	
観光振興体制の充実	
行政サービスの維持	(3) こどもを産み育てるサポート体制の充実
自治体DXの推進	(4) 生涯を島内で過ごすための健康づくりと 高齢者福祉の充実
財政健全化の推進	(5) 多様な地域コミュニティの維持と連携強化
公共施設の維持・管理	(1) 上島町であり続けるための観光の定着
広聴活動	
広域連携の推進	
広報活動と情報公開	
情報通信網の充実と利活用	(2) 町民と観光客の交流の創出
	(3) 島の遊び場・交流スペースの充実
	(4) 上島愛を育む人づくり

1

基本目標

海と自然・なりわい

- 人と海・山・里が共存するまちづくり
- 誰もが希望をもって働き、
活気あふれるまちづくり



目指す未来の姿

価値ある仕事と、自然を未来に残す

本町には世界に誇れる景観と自然環境があり、私たちの心を豊かにしてくれるとともに、町の産業の基盤となっています。この景観と自然環境を次世代につないでいくため保全に取り組みつつ、農林水産業の振興を支えます。また、町の活力の維持・向上のため、人生のどのタイミングでもチャレンジできる就労の場づくりや創業を支援するとともに、地場産業の活性化に取り組みます。

わたしたちに
できることは何が
あるか一緒に考えて
みよう！



創 業

お店や会社などの仕事を、はじめてスタートすること。

地場産業

その地域に昔からあり、地元の人や材料を生かして作られている産業のこと。

関連するSDGs

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGs(エスディー・ジー・ズ)

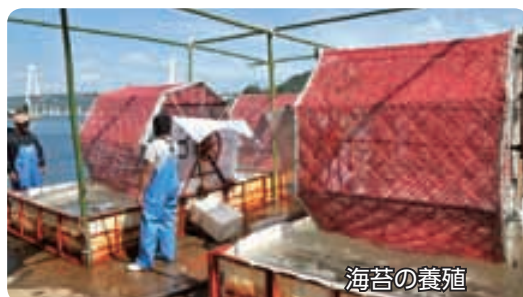
世界みんなが安心して暮らし続けられるように、地球や人を大切にするための目標。

1-1

自然環境を活かした産業を続けられる

基本方針

- 本町の主な産業である農業・水産業と造船業について、計画に基づく基盤整備や生産性の向上をはじめ、後継者や担い手の人材育成にも積極的に取り組み、産業振興と経済活性化を進めます。また、継続的な森林維持管理を行い、森林の整備及び保全に努めます。



海苔の養殖

産業振興

地域の仕事や会社を元気にして、発展させること。

1-2

人と自然を活かす挑戦を支える

基本方針

- 町内の中小企業や個人事業主の事業継続を支援するとともに、創業を目指す人や町内事業者への制度の充実を図り、創業や新分野へのチャレンジを後押しします。
- 上島町商工会や町内企業と連携して、本町の様々な仕事の魅力発信に取り組み、雇用機会の創出に取り組みます。
- 柑橘類やジビエ等を利用した6次産業化を支援し、地場産業の活性化に取り組みます。



柑橘ジビエのぼたん鍋

6次産業化

農家などが、作るだけでなく、加工や販売まで自分たちで行うこと。

1-3

島の自然環境を守り、美しさを保つ

基本方針

- 本町の豊かな自然環境を保全するため、町民や関係団体とともに景観の維持に努めます。
- 社会情勢や時代の流れに即して、ごみ排出量削減とリサイクル率向上の取組を進めます。



景観づくり団体の活動

総合戦略の数値目標

● 商工会会員数

基準値(令和6年度)

246 件



目標値(令和12年度)

270 件

総合戦略の具体的施策と重要業績評価指標(KPI)

1 自然や景観の保護・管理(高付加価値化)

産業を支える豊かな海・山・里と、私たちが誇りにしている自然が織りなす美しい景観を未来に残し、共存していくため、まちの景観の管理体制を整え、漁場の整備、森林資源の活用、耕作放棄地の解消、鳥獣被害の対策に取り組みます。また、地区清掃の呼びかけやボランティア団体への助成、環境教育等、町民の環境保全に対する意識を高める取組を実施します。

農林水産物の生産性の向上と島内産品の安定した販売および高付加価値化を目指し、6次産業化に向けた取組を支援します。

KPI (重要業績評価指標)	遊休農地再生利用面積(遊休農地再利用対策事業費補助金活用面積)	
	令和2年度～令和6年度累計(基準)	令和8年度～令和12年度累計(目標)
	1.7ha	2.0ha
	漁場整備面積(魚礁・増殖礁設置及び海底耕うん実施面積合計)	
	令和2年度～令和6年度累計(基準)	令和8年度～令和12年度累計(目標)
	328ha	365ha
	イノシシ(成獣)の搬入率(加工会搬入数/捕獲数)	
	令和6年度(基準)	令和12年度(目標)
	33%	58%
主な事業・取組	▶ 遊休農地再生利用対策事業 ▶ レモン産地育成支援事業 ▶ 農作物渇水対策事業 ▶ 未来型果樹産地強化支援事業 ▶ 桜保全事業 ▶ 農村環境保全向上活動支援事業 ▶ 新規就農者育成総合対策事業 ▶ 鳥獣被害緊急捕獲活動支援事業 ▶ 捕獲隊支援事業 ▶ 猟銃取得促進事業 ▶ 鳥獣被害防止対策事業 ▶ 水産環境整備事業(魚礁・増殖礁) ▶ 海底耕うん	

2 地場産業の魅力化・発信

町内事業者と連携し、第一次・第二次産業の魅力ある労働環境づくりを促進することで、地場産業のイメージアップを図り、町内事業者の採用活動の支援に取り組みます。

農林水産業や造船業等の町にある仕事の魅力を発信することで、町内外からの雇用の拡大を図ります。特に、若者を対象とした、農林水産業を含めたモノづくりの楽しさ・面白さを学び、伝える取組に努めます。

KPI (重要業績評価指標)	若手(50歳未満)の新規漁業就業者数	
	令和2年度～令和6年度累計(基準)	令和8年度～令和12年度累計(目標)
	3人	5人
	認定農業者(※)及び認定新規就農者数	
	令和6年度(基準)	令和12年度(目標)
	31人	31人
	研修制度利用者数 (ワーキングホリデー・お試し就業研修・インターンの参加者数合計)	
	令和2年度～令和6年度累計(基準)	令和8年度～令和12年度累計(目標)
	38人	40人
主な事業・取組	▶ワーキングホリデー ▶上島町お試し就業研修事業 ▶上島町農林漁業インターン事業	

③ 創業・チャレンジへの支援

企業や人材の誘致に加え、町民とU/Iターン者の移住者による創業やチャレンジを支援するため、上島町商工会と連携し、相談体制の整備、創業・事業展開に必要な費用の補助、融資制度の支援を行い、就業の選択肢を増やすとともに、交流人口を拡大して賑わいを創出します。また、創業希望者等の地域に新しい人々がスムーズに定着し、事業を継続・展開できるようにサポートします。

KPI (重要業績評価指標)	創業・事業展開に関する補助金利用件数 (上島町チャレンジ応援事業補助金の利用件数)	
	令和2年度～令和6年度累計(基準)	令和8年度～令和12年度累計(目標)
	4件	15件
	上島町中小企業振興資金融資制度利用事業者数	
	令和2年度～令和6年度累計(基準)	令和8年度～令和12年度累計(目標)
	14社	20社
	▶上島町チャレンジ応援事業(創業・事業展開) ▶上島町企業誘致促進条例による各種奨励措置 ▶上島町中小企業振興資金融資制度 ▶ゆめしま奨学金制度事業	

④ 離島(地理的条件)を活かす

海や山の資源、景色、温暖な気候といった自然環境や島同士が橋で繋がっているコンパクトな町であり、島外にもアクセスしやすいといった特性を最大限に活かしたまちづくりに取り組みます。また、ポテンシャルの高い本町の豊富なコンテンツを組み合わせることで、新しい価値を創造し、上島ブランドの確立を目指します。

⑤ 産業を越えた相互連携

生産者・商工業者・販売者・観光業者といった産業の垣根を越えた事業者同士の連携を促進することで、多様な視点を活かし、商品開発や販路拡大・開拓に繋げるとともに、地域の物流課題の解決等を目指します。経済が循環する仕組みを構築し、自立的で持続的に成長する地域経済の創出に取り組みます。

2

基本目標

教育・歴史・文化

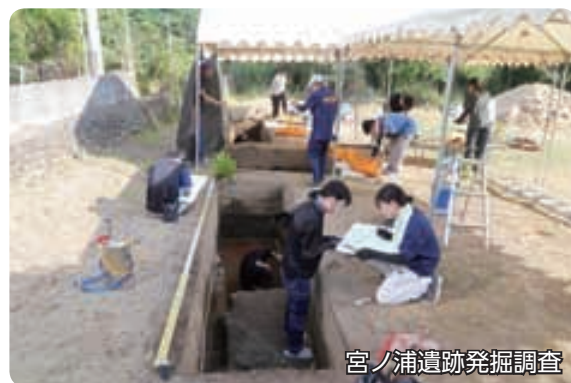
- こどもも大人も学び続けられるまちづくり
- 歴史・文化を継承し、活かすまちづくり



目指す未来の姿

- ・ 島の歴史や文化を学び、継承し、ふるさとへの学びを育む町
- ・ 教育の魅力を発信し、町内外から人が学びに訪れる町
- ・ 地域が連携し、島の魅力を次世代へ継承する町

こどもたちが島の文化や伝統の中で育ち、歴史を学ぶことを通して、本町に誇りと愛着を持ち、町と関係を持ち続けられるよう、学校・家庭・地域が連携して教育環境の充実を図ります。また、こどもから大人まで、幅広い世代の町民が充実した人生を過ごせるよう、歴史・文化・芸術・スポーツ等にかかわることのできる機会の提供や環境整備を行います。



宮ノ浦遺跡発掘調査

関連するSDGs

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



島の歴史や文化について、どのくらい知っているかな？



2-1

島における学校での学び

基本方針

- こどもたちの可能性を広げ、夢につなげる教育を推進します。
- 学校・家庭・地域のつながりを大切にした教育を推進します。
- 弓削商船高等専門学校との連携協定に基づき、地域の振興・発展、教育研究の充実及び人材育成に協力して取り組みます。
- 弓削高校振興対策協議会を中心に関係機関と連携しながら、弓削高等学校の存続に向けた魅力化プロジェクトを推進します。



遠隔授業

高校魅力化プロジェクト

その地域、高校ならではの取組により、「生徒が行きたい」「保護者が通わせたい」「地域が活かしたい」と思う、魅力ある高校にする活動のこと。

2-2

地域社会での学びと育ち

基本方針

- 生涯にわたる学びの場や機会が確保されるとともに、地域住民同士の交流と活動が維持される取組を進めます。
- 町民一人ひとりの尊厳が保たれ、誰もが尊重されるとともに、性別にかかわらず個人の能力を生かして活躍できる社会の実現を目指します。



上島町文化祭

尊 厳

一人ひとりが大切な存在として、大事にされ、傷つけられないこと。

尊 重

相手の考えや気持ちを大切に、その人らしさを認めること。

2-3

島の歴史・文化を生かす

基本方針

- 本町が誇る文化・文化財を未来につなげる取組を推進します。



町内のだんじり集結



弓削島荘史跡講座

総合戦略の数値目標

● 歴史・文化を継承する活動の参加者数

(上島町文化財講座、上島町文化財探訪ツアー、弓削島荘遺跡探訪・散策講座等への参加者数)

基準値(令和6年)

363人

目標値(令和12年)

400人

● 町内小中学校を対象とした上島町の歴史・文化に触れる学習支援の回数

基準値(令和6年)

0回

目標値(令和12年)

各小中学校で1回

総合戦略の具体的施策と重要業績評価指標(KPI)

1 小～高までの教育環境の「持続」「魅力化」

小学校・中学校・高校・高専と地域が連携し、一貫性のある教育体制の構築を目指すとともに、地域資源を活用したふるさと教育を実施することで、地元への愛着と誇りを育み、地域に関わろうとする意欲をもった人材育成に取り組みます。また、離島ならではの教育サービスの提供により、町外からの児童・生徒の募集を積極的に行い、こどもたちの可能性を広げる豊かな教育環境づくりを推進します。

KPI (重要業績評価指標)	県立弓削高等学校への入学者数	
	令和6年度(基準)	令和12年度(目標)
	32人	40人
	魚島離島留学の在籍生徒数	
主な事業・取組	令和6年度(基準)	令和12年度(目標)
	7人	7人
	▶ 振興対策補助金交付事業 通学費補助 / 入学祝金 / 大会参加補助 町有施設利用補助 / 県外留学生下宿補助 / 全国募集補助 自転車購入補助 / 学校魅力化関係補助	
	▶ 弓削高等学校魅力化プロジェクト 公営塾運営/魅力化コーディネーター設置/学生寮運営/ 弓削高校魅力化アドバイザー事業/給食提供 ▶ 魚島さざなみ留学 ▶ 弓削商船高等専門学校連携事業	

② 生涯学習活動の拠点の整備

生涯学習活動の拠点を明確化します。あらゆる世代が集い、学びたい時に学べる施設として、地域住民の主体的な活動を支援することで、活発な地域交流・多世代交流を目指します。加えて、社会教育士等の地域づくりをリードする人材の育成を推進することで、活動の充実や拠点の維持を図ります。

KPI (重要業績評価指標)	社会教育の拠点施設の数	
	令和6年度(基準)	令和12年度(目標)
	1か所(上島町教育委員会事務所)	2か所
主な事業・取組	▶ 社会教育事業(運動会・文化祭・二十歳を祝う会等)の継続実施 ▶ 社会教育団体(文化協会・スポーツ協会等)の活動支援 ▶ 生涯学習活動を実施できる施設の周知 ▶ 地域住民を主体とした講座や体験プログラムの実施	

③ 歴史・文化を学ぶ拠点の整備と継承する人材の育成

町の歴史・文化を学ぶことができる拠点施設の設置を目指します。拠点施設の整備により、歴史・文化資源の調査・収集・保存・展示といった基盤となる活動を行います。町民の自発的な学習や活動の支援、大学や町内の学校教育と連携した講座を実施し、歴史・文化を継承する人材を育成します。また、観光産業と連携し、関係人口の増加や賑わいの創出に繋がります。

KPI (重要業績評価指標)	歴史・文化を学ぶことができる拠点の数	
	令和6年度(基準)	令和12年度(目標)
	0	1か所
主な事業・取組	▶ 「しまじゅうまるごと博物館」の実施 ▶ 歴史・文化ツアーの実施 ▶ ギャラリー展の開催 ▶ 歴史・文化活動に関する支援者の募集	

④ 伝統行事や食文化の継承

島独自の伝統行事や食文化の継承に向けて、担い手や関連団体を支援するとともに、教育機関と連携し、次世代の人材育成を進めます。あわせて、地域に根ざした文化を改めて見直し、体験会や発表会の場を設けることで、町民全体の理解を深め、地域文化の継承をより一層推進します。

KPI (重要業績評価指標)	地域住民を対象とした行事や講座(歴史・文化に関する)の実施数 (弓削塩文化を伝える会勉強会、ふるさと歴史探訪講演会等の実施数)	
	令和6年度(基準)	令和12年度(目標)
	7回	10回
主な事業・取組	▶ 伝統行事と食文化の調査・記録・発信 ▶ 学校教育と地域が連携した伝統文化の担い手育成と食育の推進 ▶ 伝統行事と食文化を融合したワークショップの開催 ▶ 町民全体で伝統行事と食文化を継承するための交流の促進	

3

基本目標

暮らし

- 誰もが今ある豊かで幸福な暮らしを継続していけるまちづくり



目指す未来の姿

「つながるチーム上島」として

お腹から墓場まで安心して暮らせるまちづくり

公共交通や社会福祉制度、子育て支援を維持・充実させることで、島に新たに移住する人も含め、誰もが幸せに過ごせる便利で生活しやすい、住み続けたいまちづくりを進めます。加えて、安全・安心に暮らせるまちをつくるため、地域住民と連携して防災対策や防犯対策に取り組めます。

島のみんなで
未来を支える
チームだよ



社会福祉制度

お年寄りや子ども、体の不自由な人など、困っている人を社会みんなで支える仕組みのこと。

関連するSDGs

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



3-1

島における快適な暮らし

基本方針

- 公共交通については、公共・民間事業者の状況や町民のニーズの把握に努めながら、関係機関で協議し、交通体系の維持・再編に努めます。
- 町有バスについては、運行ダイヤ・料金設定・車両の小型化・民間委託・デマンド交通の拡充等により効率化を進めます。
- 公営航路については、利用者増を図るため、町民ニーズを捉えた適切な運営に努めます。
- 港湾・漁港については、老朽化した施設の延命化や機能保全に努めます。
- 町民の生活に欠かせない水を供給するとともに生活排水をきれいにして河川や海に戻すため、施設・給排水管設備の維持・更新、上下水道事業の財政の健全化等に努めます。



生名フェリー

健全化

物事を、正しく、問題のない状態にすること。

3-2

いくつになっても健やかな暮らし

基本方針

- 幼少期からライフステージに応じた健康づくりを推進するとともに、生活習慣病予防や介護予防・重度化防止に取り組み、健康寿命の延伸を目指します。
- 国、県と連携しながら国民健康保険や後期高齢者医療保険等の各種制度の維持に努めるとともに、町内診療所や町外医療機関との連携による医療サービス・救急体制の確保に努めます。
- 高齢者が住み慣れた地域で健康で安心して生活できるよう、本町の実情に即した地域包括システムの構築を目指します。
- 障がい者の自立支援や日常生活支援の充実を図るとともに、就労支援や移動支援等の充実に取り組みます。
- 地域共生社会の理念に基づき、地域における助け合い・支え合いを推進するとともに、相談支援体制とセーフティネットの強化に努めます。



介護予防 自主活動「わくわく」

ライフステージ

人が生まれてから大人、お年寄りになるまでの、年齢や成長に合わせた生活の段階のこと。

地域包括

お年寄りや体の不自由な人が、住みなれた地域で安心して生活できるように医療や介護、地域の人たちが協力して支える仕組み。

セーフティネット

生活にこまったときに、国や地域が助けるしくみのこと。

3-3 こどもの笑顔あふれる暮らし

基本方針

- 国が示す「こども大綱」の趣旨に沿って、全てのこどもが身体的・精神的・社会的に幸福な状態で生活を送ることができる社会の実現を目指します。
- こどもの成長段階に応じてこどもの発育・発達を地域全体で支援し、こどもにとっての最善の利益を第一に考え、全てのこどもが笑顔で暮らし、健やかに成長できるまちづくりを進めます。



弓削保育所

こども大綱

すべてのこどもが、体も心も元気で、安心して暮らせる社会をつくるために、国が決めた考え方や目標をまとめたもの。

3-4 住みたい・住み続けたいを支える

基本方針

- 移住・定住に関する相談体制の充実と、移住・定住に関する施策や町の魅力等の情報発信の強化を図ります。
- 移住・定住希望者のための住宅として、空き家の利活用や公営住宅の入居等を進め、希望者への住宅の供給を促進します。
- 公営住宅について、住まいの確保の面から適切な維持管理に努めます。



移住フェア

3-5 島での安全・安心な暮らし

基本方針

- あらゆる自然災害への対応力を向上させるため、上島町地域防災計画に沿った防災体制の構築と地域防災力の強化に努めます。
- 町民が安全・安心に生活できるよう、防犯体制の強化や交通安全に取り組むとともに、消防・救急体制の維持に努めます。



消防庁舎

● 幸福度アンケート平均点（住民意識調査「地域における幸福度」の結果による）

基準値（令和5年）

6.5 点



目標値（令和12年）

7.0 点

総合戦略の具体的施策と重要業績評価指標(KPI)

1 公共交通の利便性の向上

町民のニーズをくみ取り、島内外の移動手段の充実を図り、さらなる利便性の向上に取り組むとともに、継続して利用方法の周知を行い、利用率の向上を目指します。加えて、船やバスの便数の維持に努めます。

KPI (重要業績評価指標)	町有バス及びデマンドバスの延べ利用者数	
	令和6年度(基準)	令和12年度(目標)
	53,701人	56,000人
主な事業・取組	▶ デマンド型交通の運行形態の見直し、改善及び拡充	

2 移住・定住しやすい環境の整備

町内の地域資源や「便利な離島」をPRし、若者・子育て世帯・Uターン移住者をメインターゲットに移住定住の促進を図り、選ばれる町を目指します。そのために、空き家や使われなくなった施設を有効活用した住居の整備等、受け入れ・サポート体制の強化に取り組むとともに、移住・空き家窓口やポータルサイトを運営し、上島町の暮らし、住まい、求人等の情報を積極的に発信します。

KPI (重要業績評価指標)	年少人口 (住民基本台帳による)	
	令和6年度(基準)	令和12年度(目標)
	386人	386人
主な事業・取組	▶ 空き家・空き地情報バンク制度や空き家活用事業 ▶ 移住お試し住宅事業 ▶ 移住コーディネーター設置事業 ▶ 移住相談・町内案内事業 ▶ 移住パンフレット制作事業 ▶ 移住定住促進説明会・フェア実施事業 ▶ ゆめしま奨学金制度事業	

3 こどもを生み育てるサポート体制の充実

妊娠期から母子保健の支援に取り組み、妊産婦やこどもの医療費助成等により子育て世帯の経済的負担の軽減を図ります。

こどもの一時預かり等の多様なニーズに対応した保育事業や、放課後児童クラブの整備・充実、子育て世帯と地域住民との交流を促進する取組を実施することで、地域全体でこどもを育む環境を整え、仕事と子育ての両立等、夢を叶える支援をします。

KPI (重要業績評価指標)	出生数 (住民基本台帳月報による)	
	令和6年度(基準)	令和12年度(目標)
	17人	17人
主な事業・取組	▶ 妊婦及び不妊治療の通院時交通費の助成 ▶ チャイルドシート購入助成 ▶ 15歳までのインフルエンザ予防接種助成 ▶ 22歳までの学生医療費助成 ▶ 保育料無料化による子育て世帯の負担軽減 ▶ 愛顔の子育て応援事業補助金 ▶ 男女共同参画の視点についての企業等への啓発、育児休業取得の促進 ▶ 上島町保健福祉計画や上島町障がい者計画・障がい福祉計画・障がい児童福祉計画等の推進 ▶ 地域子育て支援拠点事業の促進、子育て環境の向上 ▶ パパママ教室や育児教室等の開催 ▶ 乳児全戸訪問事業 ▶ 産後ケア事業 ▶ 妊婦等包括相談支援事業 ▶ 妊婦のための支援給付	



4 生涯を島内で過ごすための健康づくりと高齢者福祉の充実

医療体制の確保と福祉に関わるスタッフの確保・育成に努めます。また、行政、医療機関、地域が連携し、健康意識の向上や壮年期からの健康診断を推進し、健康寿命の延伸を図るとともに、高齢者の社会参画支援による生きがいづくりに取り組み、生涯活躍のまちを目指します。

KPI (重要業績評価指標)	平均自立期間 (KDBシステムデータより算出)	
	令和6年度(基準)	令和12年度(目標)
	男性79.1歳 女性83.9歳	全国平均
主な事業・取組	▶健康増進事業 ▶健康ポイント制度の推進 ▶高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施 ▶地域包括ケアシステム推進 ▶介護保険制度の適切な運営・利用 ▶在宅医療・介護連携推進事業 ▶生活支援体制整備事業 ▶認知症サポーター事業 ▶地域見守りネットワーク事業 ▶徘徊SOSネットワーク事業 ▶独居高齢者見守り事業	

5 多様な地域コミュニティの維持と連携強化

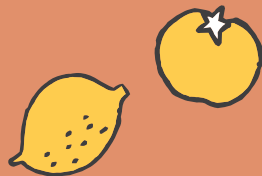
人口減少が続く中で、町内にある様々な地域コミュニティが将来にわたって存続するよう、チーム上島として地域共生社会の実現を目指します。そのために、自治会や地域の活性化事業に対する補助を行うとともに、地域の課題を住民主体で解決する体制づくりや地域活動の担い手の確保、共助意識の醸成を支援します。また、島同士の交流の機会づくりを推進することでコミュニティ同士の話し合いや連携を強化します。

KPI (重要業績評価指標)	ふるさと事業費補助金採択件数	
	令和6年度(基準)	令和12年度(目標)
	14件	17件
主な事業・取組	▶ふるさと事業費補助金 ▶景観づくり活動助成 ▶自治会活動補助金	



人と人との関係

- 人が活発に交流し、
ふれあいのあるまちづくり



目指す未来の姿

誰もがふるさとに誇りを持ち、
人と人が笑顔でつながる上島愛が循環する町
～愛の輪～

循環

一方向に進むのではなく、回りながら同じ流れをくり返すこと

ゆめしま海道の景観や島の人たちの温かさは、国内外の多くの人の心をつかみ、観光誘客や関係人口・交流人口の拡大に寄与しています。人と人との交流を生み出す取組と観光客の消費を促す取組により、町全体の活性化につなげ、上島町に関わりたい・また来たいと思える魅力あるまちづくりを進めます。

関連するSDGs



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



てしごと市

自分の生まれ
育ったまちや地域を
もっと好きになって
欲しいな！



4-1

島を起点とした多様なつながり

基本方針

- スポーツイベントをはじめとする各種イベントについて、本町への経済的な波及効果や運営スタッフの負担等を勘案しながら、より効率的な交流機会の拡充を進めます。
- 海の駅舎や弓削・生名・魚島地域交流センター等の利用を促進し、関係人口・交流人口の創出に取り組みます。



波及効果

一つの出来事や取り組みのよい影響が、まわりにも広がっていくこと。

勘 案

いくつかのことをよく考え合わせて、判断すること。

拡 充

今あるものを広げたり、増やしたりして、もっと充実させること。

促 進

物事が早く進むように、後押しすること。

4-2

訪れたくなるまちづくり

基本方針

- 観光客の受入体制の充実を図るとともに、サイクリングや豊かな自然環境を前面に押し出した本町の魅力の情報発信を強化します。
- 町の魅力のひとつである歴史・文化遺産等の地域資源を観光面における利活用につなげます。
- 上島町観光協会や地元事業者との連携を深め、地域と一緒に観光情報を発信していきます。
- 県や近隣自治体との広域連携により、町の魅力を高め、観光振興につなげます。



近隣自治体

自分の市町村の近くにある、市や町、村のこと。

広域連携

いくつかの市や町などが、広い範囲で協力し合うこと。

観光振興

観光に来る人を増やし、地域をもっと元気にする取り組みのこと。

総合戦略の数値目標

● 観光体験プログラム参加者数

(観光協会で申込を受け付けている体験プログラムの参加者数)

基準値(令和6年)

386 件

目標値(令和12年)

550 件

● 郷土愛指数 (住民意識調査「郷土愛指数」の結果による)

基準値

—

目標値(令和12年)

70 %

総合戦略の具体的施策と重要業績評価指標(KPI)

1 上島町であり続けるための観光の定着

訪れる人が、島の歴史・文化や日常を知ったり、経験したり、島の人のあたたかさに触れたりすることで、この土地について、愛着を持つことができる上島町らしい持続可能な観光ビジョンを町民とともに策定し、町の多様な観光資源の付加価値を高め、その魅力を戦略的に発信し続けます。町そのものを好きになってもらうことで、リピーターや関係人口の増加に繋がります。

KPI (重要業績評価指標)	上島町観光協会の会員数	
	令和6年度(基準)	令和12年度(目標)
	117件	130件
	観光入込客数	
	令和6年度(基準)	令和12年度(目標)
	163,588人	188,500人
主な事業・取組	▶ 上島観光推進業務 ▶ 観光振興計画の更新 ▶ 上島町観光協会育成補助金	

② 町民と観光客の交流の創出

町民と観光客が尊重し合い、関係性を深めるため、町内事業者・各種団体等と連携して、今あるモノを活用し、町民と観光客の交流機会を創出します。交流を通して、町民が地元に誇りを感じ、地域への関心が高まることで、町の魅力が向上する好循環を生み出します。

KPI (重要業績評価指標)	観光客と町民が交流するイベントの回数 (町や町内各種団体・事業者が開催したイベント数合計)	
	令和6年度(基準)	令和12年度(目標)
	24件	30件
主な事業・取組	▶ ふるさと事業費補助金事業 ▶ かみじま音楽祭事業 ▶ 上島町文化財講座・史跡弓削島荘遺跡探訪・散策講座 ▶ 上島町文化財活用企画展 ▶ 各種イベント事業 (かみじまふるさと夜市、サイクリングしまなみ、いわぎ桜まつり等)	

③ 島の遊び場・交流スペースの充実

公園・コミュニティ施設等を活用し、こどもや若者が遊んだり気軽に集うことのできる場所や空間の充実化に取り組みます。また、多世代交流を促進するため、イベントやワークショップ等の人と人が交わるきっかけ作りを行う活動団体を支援し、地域コミュニティのつながりを強くします。

KPI (重要業績評価指標)	ふるさと事業費補助金 イベント事業採択件数	
	令和6年度(基準)	令和12年度(目標)
	5件	7件
主な事業・取組	▶ ふるさと事業費補助金	

④ 上島愛を育む人づくり

まちづくりや地域行事、イベント等で誰もが活躍できる仕組みづくりに取り組むことで、上島愛を育み、人材育成を図ります。地域の活力を作りだすとともに、こどもや若者も住み続けたいと思える上島町を目指します。

KPI (重要業績評価指標)	二十歳を祝う会アンケートの郷土愛指数 (二十歳を祝う会の出席者にアンケートを実施し測定)	
	令和6年度(基準)	令和12年度(目標)
	—	70%
主な事業・取組	▶ 子ども体験教室の継続実施 ▶ 各イベントでの児童生徒のボランティアスタッフ募集や実行委員会に町の若者に入ってもらふ等の工夫	

5

基本目標

行財政

- 持続可能な行財政運営ができているまち



行財政運営

市や町などが、仕事(行政)とお金(財政)を、計画的に管理しながら進めていくこと。

人口減少等により財政状況が厳しくなる本町において、時代の流れに対応した行政サービスを提供するため、DXを推進活用し、効果的な施策や業務の効率化に取り組むことで、持続可能なまちづくりを進めます。また、広報広聴活動に力を入れ、本町の魅力を発信するとともに、町民の声を聴く機会を創出し、その視点を取り入れた施策を展開します。



庁舎内の様子

DX

デジタルの力を使って、仕事や暮らしをよりよく変えていくこと。

持続可能なまちづくり

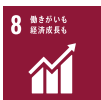
今だけでなく、これから先もずっと続けていけるように、環境や暮らしを大切にしながらまちをつくること。

広報広聴活動

市や町の情報を伝えたり、市民の意見を聞いたりする取り組みのこと。

関連するSDGs

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



8 働きがいも経済成長も



11 住み続けられるまちづくりを



17 パートナリーシップで目標を達成しよう

デジタルの力で、
もっと住みやすい
まちにしていこう！



5-1

魅力あるまちを支える

基本方針

- 行政サービスの質を落とすことなく、持続可能で合理的な行政運営のあり方を検討するとともに、財政状況の見通しに基づく公共施設等の適正な維持管理と財政運営の健全化に努めます。
- 時代に即応したデジタル技術の導入と利活用により、町民の利便性の向上を図るとともに、町職員の業務改善と行政サービスの効率化を目指します。



合理的

無駄がなく、道筋が通っていること。

即応

何かが起きたときに、すぐに対応すること。

5-2

まちの魅力を伝える

基本方針

- 町行政の情報を広報誌やホームページ等の様々な媒体により発信するとともに、町民からの意見も広く受け付け、町民に開かれた行政運営を進めます。
- 情報通信網の維持・向上により、時代に即した行政サービスや町民生活の維持・向上に取り組めます。



媒体

情報や気持ちなどを伝えるための手段や道具のこと。

情報通信網

情報を遠くまでやりとりするための、つながりの仕組みのこと。

即した

ある決まりや状況にぴったり合っているということ。



第3次上島町総合計画・第3期上島町総合戦略（概要版）

編集・発行 / 上島町 総務部 企画情報課

住 所 / 〒794-2592 愛媛県越智郡上島町弓削下弓削 210 番地

TEL / 0897-77-2500 FAX / 0897-77-4011

発行年月 / 令和8(2026)年3月